

# 静岡高仲間と交流 今も



## ふるさとと メール

東大教授 伊藤元重さん

全国で活躍する著名人が故郷の人々に思いを伝える「ふるさととメール」。静岡県の6人目は、静岡市出身の東大教授の伊藤元重さん(64)です。政府の経済財政諮問会議の民間議員などを務め、安倍政権のブレーンとして活躍しています。教鞭を執る傍ら、新聞への寄稿やテレビ出演など情報発信にも積極的でおなじみの方も多いのではないのでしょうか。1回目は、高校まで過ごした故郷の思い出などを語ってもらいました。(聞き手 秋山洋成)

少年時代の思い出を語る伊藤さん(東京都文京区で) =伊藤絳二撮影



「どんな子どもでしたか。」

「3人兄弟の長男でした。父は造船の技術者で、静岡市内の集合住宅に住んでいました。水洗便所やダストシュートがあり、結構モダンなものでした。性格はどちらかというと、おとなしいタイプ。本が好きで、『ドリトル先生』のシリーズとかをよく読んでいました。家には大きなステレオがあり、クラシックの音楽が流れていましたね。両親は音楽の趣味があったとは思えず、子どものために買っ

くれたのだと思います。」

「夏休みになると、母の実家がある菊川市に3〜4週間滞在しました。家の裏には、小高い山があり、地元の子もたいてい捕り魚釣りに夢中になりました。今も心に残る風景です。」

「中学に入ると、音楽に熱中したと聞きました。」

会議委員、同年9月から復興庁復興推進委員会委員長、静岡市創生会議の委員も務める。専門の国際経済にとどまらず、財政や社会保障、流通など幅広いテーマに精通し、鋭い分析に定評がある。「東大名物教授がゼミで教えている人生で大切なこと」「流通大変動現場から見えてくる日本経済」など著作多数。

いついともとして 1961年12月生まれ。静岡市出身。静岡高を卒業後、東京大経済学部に進学。74年卒業。79年米ロチェスター大学大学院で経済学博士号取得。96年東大大学院教授。2010年1月から、安倍政権の経済財政諮問

### 経歴

### 経済に幅広く精通

### カラオケの夢に夢中

「夏休みになると、母の実家がある菊川市に3〜4週間滞在しました。家の裏には、小高い山があり、地元の子もたいてい捕り魚釣りに夢中になりました。今も心に残る風景です。」

「友達に誘われ、プラスチックバンドに入りました。金管楽器のユーフォoniumが担当で、音が出るようになって楽しくて……。みんなで音を一つに合わせる作業に夢中になりました。当時の部長は厳しく、練習をきっちりしている部員がいたら、竹刀でお尻をたたくようなこともありましたが、今だったらいけませんよね。ほかの学校のプラスチックバンドと、静岡の街をイベントでパレードするのにもあり、面白かったですね。」

「進学した静岡高でもプラスチックバンドを続け、部内の仲間たちと友人関係がより濃密になり、よく遊びました。大みそかには、静岡市の大浜海岸にイベントを張って、初日の出を拝みまで。静岡市から御前崎まで一緒に自転車で行ったのもありました。そういうえば、高校の近くには、有名な

## 大都市と情報格差 読書で埋めようと

焼きそば屋がありました。今でも、年に1回同窓会を開き、顔を合わせています。生涯の友人に巡りあえました」

東大に合格しました。勉強は大変でしたか。

「当時の静岡高はおよそ受験校のムードとはほど遠く、クラスの半分くらいは浪人じやなかったかな。誰がこの大学を受験するかも知らず、のんびりしていました。本屋が好きで、よく通っていました。『灘校生の勉強法』といったような本をたまに勝手に

### 「灘校」刺激に

「同年代、高校生のころに進んだ勉強をした。勉強をされているのかと感心するのにも、大いに刺激を受けました。親しい友人と2人で、公民館にこもって問題を解いていました。彼は、大手電機メーカーの幹部まで務めましたね」

「高校3年の夏頃までは、理系志望。父親がエンジニアで、数学も苦手ではありませんでした。ただし、世の中のことが色々見え始めるようになり、外交官を志望するようになりました。タイトルは変わりましたが、影響を受けた本がありました。数学を生かせるので、経済学部を目指しました」

静岡を離れ、東京での生活はいかがでしたか。

「ショックでした。東大の同級生は、みんななまけていて、同窓会も年上のように感じました。(勉強ではなく)学問として、すでに大学で学ぶ本を読んでいましたね。自民党税制調査会長の高沢洋一さんや元総務相の片山善博さんらがいました。片山さんは、小学生の時に、『ロシアの文豪』ドストエフスキーを読んでいたのうわさが流れていました」

「大都市と地方都市の間に、当時大きな情報格差がありましたね。何とか差を埋めたいという気持ちがあり、1日1冊本を読み始めました。むちゃな目標で途中で挫折しましたが、その後、時間があれば、本を読むという習慣が身につきました」